

極的な意見、それへの反論などの活発な討議の後、賛成多数で可決された。

その他の議案について

以上のほか、「国際地球観測百年記念に際して（声明）」、「日本学術会議の関与する特定地域国際学術団体との学術交流について（申合せ）」、「国際会議代表派遣要領の改正について」、「日本学術会議会員選挙規則の一部改正について」、「第12期における第85回総会以降の研究連絡委員会等の組織・運営について（申合せ）」が提案され、いずれも原案どおり可決された。

（追記） なお、報告中の「第12期における第85回総会以降の研究連絡委員会等の組織・運営について（申合せ）」は昨年来懸案になっていた、既存の研連から委員を供出して研連を新設、改組する問題を最終的に決めたもので、その結果地球物理学研究連絡委員会は委員定数が4名削減され59名となった。しかし、研連の運営を円滑にするため、今期は削減された委員を旅費を伴わないC委員として引き続き依頼することになった

（日本学術会議会員 増田善信）

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
月例会「大気数値シミュレーション」(第4回)	昭和57年9月3日		東京管区気象台第一会議室
第20回粉体に関する討論会	昭和57年10月5日～7日	日本化学会ほか	京大会館
昭和57年日本気象学会秋季大会	昭和57年10月13日～15日	日本気象学会	札幌市教育文化会館
Regional Scientific Conference on Tropical Meteorology (熱帯気象学に関する地域科学会議)	昭和57年10月18日～22日	日本気象学会	気象研究所 筑波研究交流センター
第19回自然災害科学総合シンポジウム	昭和57年11月1日		大阪大学工学部
第8回リモートセンシングシンポジウム	昭和57年11月9日～10日	計測自動制御学会	国立教育会館
International conference on the physics, chemistry, and meteorology of precipitation scavenging, dry deposition, and resuspension	1982年11月29日～12月3日	American Meteorological Society et al.	Los Angeles
第5回極域気水圏シンポジウム	昭和57年12月7日～9日	国立極地研究所	国立極地研究所
第7回風工学(構造物の耐風性)シンポジウム	昭和57年12月9日～10日	電気学会ほか	東京
第29回風に関するシンポジウム	昭和57年12月8日	土木学会ほか	土木学会土木図書館講堂
第2回国際統計気候学会議	1983年9月26日～30日	WMO ほか	ポルトガル・リスボン